

衆議院議員

宮本徹



国会通信

2018年6月 (N018)
宮本徹事務所
東村山青葉町2-29-2
TEL042(391)4139
FAX042(395)7069

受験生も大学也大混乱 定員管理厳格化を見直せ

今春の私立大学受験は、超難化し、「滑り止め」にも合格できない予想外のケースが頻発するなど、受験生とその家族にとって大変厳しいものでした。

最大の原因は、「地方創生」を理由に、政府が私学助成の不交付となる定員超過率を、定員8000人以上の大学で2016年度から2018年度にかけ、定員の1.2倍以上から1.1倍以上に引き下げたことです。大規模大学は、それぞれ数千人単位で合格者数をしぼり、私大全体に波及し、大学の合格ラインが急に引きあがりました。少子化にもかかわらず、浪人をせざるをえない方も増え、受験生を抱える家庭にとっても経済的に大変な問題になっています。また、大学にとっても、合格者数を絞ったことにより、定員まで行かなかったということで、追加合格を出し続け、3月末ぎりぎりまで続いてしまう大学もできました。



こうした弊害が起きている中、文科省はさらに、入学定員充足率が1倍を超えたら、補助金減額措置をおこなおうとしています。

私は、国会でリアルに告発し、弊害を直視し、学ぶ権利を保障する観点で、私立大学定員管理厳格化の方針を見直すべきと文科省に求めました。林文部科学大臣は「どうということが実際起きているかということをもふまえ、適切に措置を講ずる」と答弁しました。

働き方改悪法案は廃案にせよ

残業時間に上限規制をもうけるといいますが、上限は過労死ライン。そして、新たに設ける高度プロフェッショナル制度は労働時間の規制がない労働者を戦後はじめてつくりません。月200時間残業させても合法です。これでは過労死をいっそう増やします。

愛する家族を突然失った地獄の苦しみは自分たちで最後にしてほしい—この法案ではだめだと、過労死家族会のみなさんが連日、懸命に声をあげています。

反対の声が議場内にあふれるなか、衆議院では強引に押し通されてしまいました。命のかかった法案です。参議院での審議を通じて、廃案に追い込むために、ともに声をあげましょう。



★森友・加計疑惑 徹底追及★

もうウソは終わりにすべき

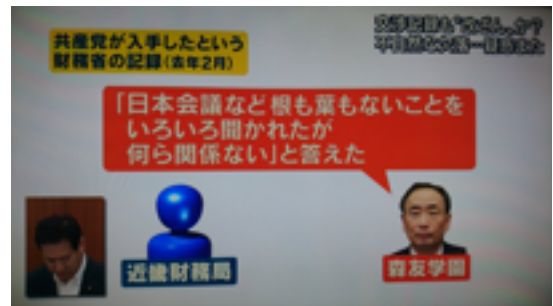
決済文書の改ざん、交渉記録の破棄、佐川氏らの虚偽答弁、柳瀬首相秘書官の虚偽答弁、さらに加計学園の信じられないコメント。安倍政権のもとで、国会と国民をだますウソが重ねられています。戦後政治でもなかった事態です。なぜ、安倍政権でこんなことが続くのか？安倍首相はこの問いにこたえられませんでした。これらは、安倍首相を守るために引き起こされているのが真実なのではないでしょうか。

森友学園疑惑は地検特捜部の不起訴処分で終わりにできません。

5月29日、私の追及で、昨年(2017年)の財務省と森友学園の交渉記録も改ざんされていたこと、決済文書の改ざんを謝罪したあとも、国会議員に改ざんされた交渉記録が資料提出されていたことが明らかになりました。(右、報道ステーション)

また、5月28日の同僚議員が独自に入手した記録文書で、昨年9月、理財局長と航空局長が、会計検査院の検査報告内容への圧力や国会議員への資料提出について「政権との関係でデメリットも考えながら対応する必要がある」と協議していたこと明らかになりました。

政権を守るために、国会と国民を欺きつづけてきたことは明白です。安倍内閣は退陣し、ウソのない正直な政治を実現すべきときです。



防衛費急増の裏で、”遊覧飛行”が急増の怪

立川駐屯地の自衛隊ヘリの騒音問題を国会でとりあげました。せめて、休日ぐらいはリラックスさせてほしいという声にこたえ、周辺自治体も「休日等の業務飛行は、緊急の場合を除き必要最小限とすること」という要望を自衛隊にだしています。

ところが、自衛隊の土日のヘリの飛行回数が5年間で大きく増えています。とりわけ、希望者をヘリにのせて遊覧飛行する「体験搭乗」が、2013年に103回だったものが、2017年度には297回へと3倍近くに増えています(管制の回数)。この内訳は、2017年度でいえば、隊員募集目的が102回、部外の方に自衛隊への理解を深めてもらう広報目的が195回。体験搭乗者は、防衛協会や隊友会、自治会連合会などの方々とのこと。

安全保障環境が厳しいといって防衛費を増やしながらか、増えた防衛費で関係者への遊覧飛行サービスを税金でやっているという厳しい批判の声があがっています。警察や消防は土日の「体験搭乗」などやっていません。事実上の遊覧飛行となっている土日の体験搭乗はやめることを求めました。小野寺防衛大臣は、「自治体からの苦情にも配慮し、適切な形で対応したい」と述べました。